

ナミビア月報

(2020年7月)

在ナミビア日本国大使館

【内政】

- イトウラ前大統領候補、新党結成へ
- イトウラ新党結成により SWAPO 支持勢力分布に変化があり得るか
- SWAPO、Fishrot スキャンダルからの資金受領を否定

【外交・対外関係】

- UNFPA、新型コロナウイルス対策支援物資の寄贈
- トルコ、新型コロナウイルス対策支援物資の寄贈
- 中国、新型コロナウイルス対策支援として 235 万米ドル相当を支援
- 中国・彭麗媛夫人(習国家主席夫人)からの新型コロナウイルス対策支援
- ウイントフック市 5G 整備事業に関連し不正疑惑
- 中国政府、追加的新型コロナウイルス対策支援
- 独、EU が環境保全・観光分野に 272 百万ナミビアドルを支援
- 独、NGO に 48.5 万ナミビアドルの小規模プロジェクト・ファンドを供与
- 技能五輪アフリカ大会の延期
- ナミビア政府、IMF に対し 45 億ナミビアドルの緊急融資 (RFI) を申請

【経済】

- 一時給付金、更に 12 万人に対して支給

【その他】

- 独立後 30 年間に象の数は 3 倍 (7, 000 頭→24, 000 頭) に
- 国内初の獣医学部卒業生
- 新型コロナウイルス感染者は累計 2, 052 人、死者 10 人 (30 日時点) に

【内政】

- イトウラ前大統領候補、新党結成へ

昨年の大統領選挙に、独立候補として出馬したパンドウレーニ・イトウラ氏は、1 日、ナミビアン紙の質問に答え、今般、ナミビア選挙管理委員会に対し、新党結成の登録申請を行った旨述べた。新党の名称は“the Patriot(愛国党)”である由。(8 日付ナミビアン紙電子版)

●イトゥラ新党結成により SWAPO 支持勢力分布に変化があり得るか

11 月に予定されている州議会・地方議会議員選挙に向け、イトゥラ前大統領候補が新党”Independent Patriot for Change”の登録申請を選挙管理委員会に対し行い、更に、“the Walivis Bay and Windhoek Affirmative Respositioning (AR)”、“the Rundu Urban Community Association”等々からも新党の登録申請が行われている。政治アナリストのホゼ・リルアコ (Hoze Riruako) 氏は、特に、所謂イトゥラ新党の結成は、SWAPO の支持者層の分裂をもたらす可能性があるとし、2014 年の SWAPO 総会 (注: 2015 年大統領選挙の候補者を確定する会合) において SWAPO 内で “Team SWAPO” と “Team Harambee” とに分裂した過去があり、昨 2019 年の大統領選挙においては、“Team SWAPO” が独立候補たるイトゥラ候補支持に回った経緯もあり、イトゥラ新党が結成されれば、SWAPO 支持層の分裂に繋がる可能性があるとしている。(13 日付ニューエラ紙 1 面)

●SWAPO、Fishrot スキャンダルからの資金受領を否定

12 日、ガインゴブ大統領及びシャニングワ SWAPO 事務局長は、与党 SWAPO が所謂 Fishrot スキャンダル (注) に係る贈収賄容疑で係争中の政治家を通じて資金を受領した疑いがあるとの嫌疑を否定した。大統領は、SWAPO の財務書類は検査することがオープンにされており、誰もそれらを再調査することも歓迎する旨述べた。先週、オリビエ (Willem Olivier) 腐敗防止委員会上級調査官は、2015 年と 2017 年にそれぞれ 15 百万ナミビアドル、2.5 百万ナミビアドルが”Sisa Namandje Trust account” (注: Fishrot キャンダルの贈収賄授受に使われたとされる弁護士事務所の銀行口座) に振り込まれ、更にその資金の一部が 2017 年の SWAPO 党大会の大統領候補選抜選挙関連に使われた疑いがある旨述べていた。

(注: ナミビア漁業権の認可を巡り、アイスランドの水産会社などを通じて多額の賄賂を受け取ったとしてエサウ前漁業・海洋資源大臣、シャングラ前法務大臣等が辞任に追い込まれ、現在、裁判係争中の事案)

(13 日付ニューエラ紙 1 面、ナミビアン紙 1 面)

【外交・対外関係】

●UNFPA、新型コロナウイルス対策支援物資の寄贈

6 月 29 日、当地 UNFPA 事務所は、保健・社会サービス省に対し、新型コロナウイルス対策支援物資を寄贈した。引き渡し式には、ゲイル UNFPA 代表、シャングラ保健・社会サービス大臣及びオデデ UNICEF 代表他が出席した。供与品目は、手袋、使い捨て防護服、医療用マスク、ヘッド・カバー、靴カバー、及びゴーグル等からなり、18, 000 人以上の医療従事者が裨益することとなり、総額 2, 883, 132 ナミビアドル相当。(1 日付ナミビアン紙 5 面)

●トルコ、新型コロナウイルス対策支援物資の寄贈

トルコ政府は、先般、ナミビア政府に対し、新型コロナウイルス対策支援として、N95 マスク 3 万枚、医療用マスク 6 万枚、防護服 2 万着を寄贈した。同引き渡し式は、ツリン・トルコ大使及びシャングラ保健・社会サービス大臣との間で執り行われた。(1 日付ニューエラ紙 10 面)

●中国、新型コロナウイルス対策支援として 235 万米ドル相当を支援

ファーウェイからナミビア保健・社会サービス省に対し、熱画像体温測定システム (thermal imaging temperature measurement system) 2 台の寄贈式典が行われた。同式典に出席した中国大使館の Yang Jun 政務参事官は、中国はナミビアに対し新型コロナウイルスとの闘いを支援するため、これまでに 4,000 万ナミビアドル (235 万米ドル) 相当の支援物資を寄贈旨述べるとともに、「中国政府は、ナミビア及び他のアフリカ諸国の新型コロナ対策を支援するにあたり、堅実な役割を果たしてきている。また、中国政府は、ナミビアで活動する中国企業に対し、新型コロナ対策支援の分野でもナミビアに貢献することを奨励している。」とも述べた。また、同式典に出席したシャングラ保健・社会サービス大臣は、ファーウェイによる今回の支援及び中国政府からの継続的な支援に感謝する旨述べた。(9 日付ナミビアンサン紙経済面 2 面)

●中国・彭麗媛夫人(習国家主席夫人)からの新型コロナウイルス対策支援

10 日、張 (Zhang) 中国大使及びモニカ・ガインゴス大統領夫人が出席し、引き渡し式が実施され、(1) 彭麗媛 (Peng Liyuan) 習主席夫人からガインゴス大統領夫人が運営するワン・エコノミー基金に対する 18,000 枚のマスク及び 120 個の体温計の贈与、及び (2) 中国大使館から同基金に対する 30 台のミシンの寄贈が行われた。なお、彭夫人は中国が外交関係を有するアフリカ 53 か国に対して、OAF LAD (Organization of African First Ladies for Development) を通じて、アフリカ大陸で新型コロナウイルスと闘う母親、子供、若者を支援するため医療資機材を供与してきた。同引き渡し式において、張中国大使は、新型コロナウイルスは政治及び経済のみならず、女性のエンパワーメント、青少年の育成及び雇用にも影響を与えてきている旨、女性と青少年の権利を護り、発展させて行くことは開発途上国にとって共通の課題である旨等述べた。(13 日付ニューエラ紙 3 面)

●ウイントフック市 5G 整備事業に関連し不正疑惑

・腐敗防止委員会 (Anti-Corruption Commission) は、中国通信大手ファーウェイがウイントフック市において進めようとしている 5G インターネット網整備事業に関連して、同市上層部に対する汚職疑惑について予備調査を開始した。これは、同事業に反対の立場をとるコーネリウス市議会議員 (民主前進闘争 : RDP) が、同党に所属するンジョゼ議員他から、500 万~600 万ナミビアドルの資金提供と引き替えに同事業への反対取下げを

要求された旨の15日付けアルジャジーラ報道を受けてのことである。(16日付ニューエラ紙1面)

・ウイントフック市の財務部局は、5Gを用いて同市をスマート・シティ化する計画に関し、調達部局は既に承認済みであるにもかかわらず、その助言役を務める法律事務所への1,000万ナミビアドルの支払いを差し止めた。15日、アルジャジーラは、同市による5G整備計画には汚職の影があると報じた。ウイントフック市議会は、当初、同市において5G接続を可能とすべく、ファーウェイにインターネット網整備を委託する意向であった。また、2022年までに同市をスマート・シティ化するとの計画は、昨年、同市議会で承認済みである。しかし、同市議会の反対派からは、情報セキュリティについての審議が不十分であるとして懸念が示されていた。(16日付ナミビアン紙1面)

●中国政府、追加的新型コロナウイルス対策支援

15日、当地中国大使館は、追加的新型コロナウイルス対策支援として医療資機材を供与し、張(Zhang)中国大使とシャングラ保健・社会サービス大臣出席のもと、引き渡し式が実施された。今回の中国政府からの支援は、手術用マスク：15万枚、医療用使い捨て防護服：5,000着、医療用フェイスマスク：15,000枚、医療用ゴーグル：7,000個、手術用使い捨てゴム手袋：7,000双、医療用靴カバー：3,000組、総額430万ナミビアドルである。同引き渡し式において、張中国大使は、かかる支援は中国とナミビア二国間の包括的戦略的協力関係を示すものである旨、また、健康なコミュニティを建設することを目的として、中国が世界の国々と取り組んでいる努力の一環である旨述べた。シャングラ大臣は、新型コロナウイルスが押し寄せてきている当国にとって個人防護具(PPEs)は一層必要とされており、更に、ナミビアはこれまで数か月に亘り、中国政府からサーベイランスやケース・マネージメントについてバーチャル研修を通じた技術協力及びキャパシティー・ビルディング面での支援を受けてきている旨述べた。(16日付ニューエラ紙2面)

●独、EUが環境保全・観光分野に272百万ナミビアドルを支援

ナミビア政府は、独及びEUから、生物多様性の保護、環境保全・観光分野の支援の継続、及び環境保護地域等の雇用の維持を目的とした総額272百万ナミビアドルの支援を得ることとなった。総額272百万ナミビアドルのうち、250百万ナミビアドルは独政府から、22百万ナミビアドルはEUから供与される。(17日付ナミビアン紙20面)

●独、NGOに48.5万ナミビアドルの小規模プロジェクト・ファンドを供与

14日、ゲルツ独臨時代理大使は、アクアポニックス(注：水耕栽培と養殖を組み合わせた環境保全型農業)を実施しているNGO(the Francis Free Life Charity Organisation)のFrancis Louw代表との間で、48.5万ナミビアドルの小規模プロジェクト・ファンドの供与に係わる契約書に署名を行った。(17日付ナミビアン紙7面)

●技能五輪アフリカ大会の延期

27日、ナミビア訓練庁は、本年10月25日から31日の日程で、当国スワコプムント市で開催予定であった技能五輪アフリカ大会を2022年3月に延期する方向でアフリカ参加各国等関係者との調整を行っていく旨を発表した。ビューカス訓練庁長官は、現下の新型コロナウイルスの影響により準備プロセスが遅れていることや必要な開催資金を確保する等の観点からも、本件開催延期は望ましい旨述べ、また、同延期については、カンジ＝ムランギ高等教育・技術・イノベーション大臣及びクーゲンゴルワ＝アマディーラ首相からも了承されている旨述べた。(28日付ナミビアンサン紙経済面3面)

●ナミビア政府、IMFに対し45億ナミビアドルの緊急融資(RFI)を申請

先週、ナミビア政府は、新型コロナ禍に引き続き迅速に対処するため、IMFに対し45億ナミビアドル相当の緊急融資(RFI)を申請した。28日のシイミ財務大臣の発言によれば、ナミビアは、約45億ナミビアドル(約268百万米ドル)に相当する191百万SDR(特別引き出し権)を有しており、今次申請は、そこからの融資を目指すものである。ナミビアの今年度予算では、通常をはるかに上回る約214億ナミビアドルの赤字が見込まれており、政府は、このうち104億ナミビアドル以上をナミビア資本市場から、また、残りを外部からの借入れ等で調達したい考えである。なお、ナミビアがIMFに融資を求めるのは、1990年の独立以来、今回が初めてである。

新型コロナ関連で、IMFはこれまで140億米ドル以上の融資をアフリカ諸国向けに承認し、最近では、27日に南アに対する700億ナミビアドルの融資を承認したところである。(29日付ナミビアン紙1面、ナミビアンサン紙1面、30日付ニューエラ紙10面)

【経済】

●一時給付金、更に12万人に対して支給

1日、シドゥウドゥ財務省報道官は、新型コロナウイルス感染症対策支援の一環で政府が実施してきた一時給付金支給については、今後更に12万人に対し支給される予定である旨述べた。一時給付金(1人当たり:750ナミビアドル)は、これまでに747,281人に対して支給され、561.96百万ナミビアドルが支出されてきた。本年度予算で、同予算は総額772百万ドルが計上されている。(2日付ナミビアン紙15面、ナミビアンサン紙経済面1面)

【その他】

●独立後30年間に象の数は3倍(7,000頭→24,000頭)に

ナミビア独立当初、象の数は約7,000頭であったものが現在24,000頭と3倍に増加した。これは、環境保護主義者の観点からすれば望ましいものであるが、他方で、野生象を抱える西カバンゴ州の農民にとってみれば、増加する野生象により水資源、家屋、穀

物等が荒らされ、深刻な問題となっている。かかる問題の協議のため、環境・森林・観光省と西カバンゴ州関係者との間で会合がもたれた。特にここ5年間で野生象による被害が深刻化している。(1日付ニューエラ紙5面)

●国内初の獣医学部卒業生

23日、ナミビア大学は国内初となる17人の獣医学部卒業生を輩出した。ナミビア大学獣医学部は2016年に創設され、今年初めての卒業生を出した。政府は、農業・水・土地改革省に新たに51の獣医ポストを設けることを承認しており、今次卒業生を受け入れることとなろう。農業・水・土地改革省は現在78人の獣医ポストを有しているがその多くはジンバブエ人が占めている。(24日付ナミビアン紙7面)

●新型コロナウイルス感染者は累計2, 052人、死者10人(30日時点)に

30日夜、シャングラ保健・社会サービス大臣は、新型コロナウイルス感染者は累計で2, 052人、死者10人になり、回復者は164人である旨発表した。また、シャングラ大臣はこれまでに25, 625件の検査を実施してきた旨述べた。(31日付ニューエラ紙1面)

(了)